公聴会 中島康 公述原稿 2025.9.6

私は熊本市から参りました。川辺川を守る県民の会に属しています中島康と申します。昨日からの公述人の話を聴いていた上で一番感じたことは、国交省が今計画している川辺川ダムというものにはほとんど公益性はないものと私は感じています。

2020年7月3日から私たちは人吉におりました。外でうるさくワーワー言っているなど思っていたら水害が起こっていたわけです。今度の水害で一番思ったのは、いろんなスピーカーとかなんかが言っても、なかなか一人一人には伝わっていないというのは、水害の現地にはいた時は確かです。

それから無理して帰ろうと思ったら帰る手もありましたが、その時に見た川辺川の水量は、確かに増えてはいましたが、それは雨宮かな、あの辺りだけが溢れていました。これはなぜかという、上の方から降った雨が流れ落ちてきて（??）あの辺りより氾濫したように見せていったのが確かです。

今回川辺川上流の方は雨が降っていないということは、起業者の方々はよくお分かりだと思います。あの時の線状降水帯は、球磨川地方の山の頂上辺りまでで集まって、あとちょっと別れたものが球磨川上流の方につながって、球磨川の方の下に氾濫をするような状況になっています。

ただ私たちがその地において一番感じたのは、実際に人々が水害の状況の中から逃げ出したのはそれよりもずっと前、球磨川があふれるずっと前です。大体2時間から2時間半以前から、球磨川の人吉の人たちは避難しています。

なぜかという支流がありまして、その支流の氾濫について起業者はバックウォーターだと平然と言ってくれていました。けどあの時に川を見に来ていただいたら皆さん分かれるはずですよ。バックウォーターだったら、溢れた水はどっちから来るか。バックウォーターの現象はいろんな山田川とそういう川には起こっておりません。

あの山田川が一番溢れたのは河川整備をするときの、都市計画の大きな間違いで、下流の方が細くなっているために上の方から溢れている。そういう状況で、球磨川では先に支流が氾濫して、それから球磨川が氾濫しています。

それから一番驚いたのが、それから何週間後くらいですかね、川辺川ダムがあったら人吉の被害は6割は減少されたのだろうと（国交省が発表した）。一体どうしてそういう話が出たのかなと思うんです。

あの時も皆様もご存知のように、私たちは五家荘に行って今回の雨はどうでしたか？と言ったら、五家荘の人たちは「今回は雨が少なくて良かったですな」とおっしゃった。川辺川の集水域の方はあまり雨が降っていないんです。なのにあそこにダムを作って何の価値があるのかというふうに感じます。

そういう意味で公益性がないひとつの理由として上げます。

先ほどの公述人も申ししておりますけれども、どうも今回の場合起業者の人は都合の悪いことには耳を塞ぐという癖がありますね。その時に、皆さんに私たちが一番最初に言ったのは、住民の間の共同検証をやろうということを何回も申し上げました。私の記憶だけでも8回は申し入れしました。

それとそのうちで4回までは、県庁から何かかんか理由を言って断ってきました。その間4回までは何の県庁もありませんでした。その後は国交省も県庁も、そういうつもりは全くありませんと言ってきました。それでいながら、今度の水害の状況は、ほとんど皆さんの感じている水害と全く違ったものを、国交省は感じておられるみたいです。

本当に川がどういう風に流れているのか、人々の市街地がどういう状況にあるのかというのをちょっと調べられたら、今回の水害というのはほとんど支流氾濫で、一番最後に球磨川が氾濫して、それ以後非常に特異な氾濫の仕方をやっていくことが分かるわけです。そしたら皆さんも問題になっているわけですね。

河川管理は国交省の方はやっていなかったんじゃないか、まあ**だったんじゃないかと思われるようなことがあります。

第四橋梁があったちょっと上流の三角地にまあはっきり言って万を超える材木が置いてありました。ああいうところに私有地であろうと、ああいうものを置かせないのが河川管理じゃないですか。そういうことは全然タッチもせずに、あのままの状態である日見に行ったらその材木等がなくなっていました。全部流れたんです。

そして第四橋梁に引っかかって、それがダム化して第四橋梁が崩壊して、その後は鉄砲水として人吉市内を襲っているんです。それは誰が見ても分かると。皆さんも分かりやすくなるんですね。

それなのに第四橋梁については、いささかもそういうことは取り上げようともされないのはどうしてなのか。第四橋梁がですね、ダム化した一番の証拠としては、あそこに住んでる方々がいつもの水害は上の方から氾濫している、今回は下の方から来たもんだと話していた。ここで下の方から妙に水が上がってきて浸水して、その後大きな音がして急に水が引いたという。これはどういう現象が起こったかということになれば、その後第四橋梁が後で崩壊することを見れば、そこで何が起こったかというのは、皆さんの専門家なので当然分かっているはずですよ。それを取り上げようとはされません。でその後鉄砲水が人吉市内を襲って、大きな被害をあの手を起こしています。それも途中の球磨川の**でほとんどと予想されることです。

私は専門は物理学にしましたけど、そういうとき大学の教授から一番よく教えられたのは「君たちは科学する心を忘れるな」とよく言われたんです。

今回河川整備基本方針を決めるときに、今度の2020年7月3日から4日にかけての河川のデータというのは、非常に現実に則さないからということで省きましたね。

けれども本当に科学をする人だったら、実際のデータを省くようなことはしないわけです。これは便宜上をうまくやろうとする時にはそういうことをしますが、私が一番よく

言われたのは、もしデータが間違っていたらすごく違った結果が出る、だから違った結果が出てくる場合はその根本をとことん探せ、ということです。

だから今回の人吉の水害のあり方を根本的にしなければ。第四橋梁がダム化したことは、あなた方も把握しているでしょ。技官であったりするでしょうから。そのぐらいの心は、やっぱり良心を持っていただきたい。

私たちは水害のことの中の検討会のようなものを人吉市内で開かれた時に、私はそういう見学に行って、その時にちょっと一つの意見として、今回の水害を時系列で見ようということ話をしました。今回の水害を時系列的に見ると、今回人吉市の22名かな（注；20名）の犠牲者の方々は全部球磨川の氾濫で亡くなられているんじゃないかということは、きっと分かるはずですよ。そしてどういう形の水害だったかどうも分かるはずですよ。そういうことを住民との間で共同検証をやるということは、国土交通省にとっても非常に良い意味ではないんですか。

私は住民との間で共同検証を今からでもやる必要はあるのではと思います。

共同検証を頑なに断りつけている理由を、本当はお聞きしたいのですが。

■国交省

共同検証ですが、豪雨検証につきましては、令和2年7月豪雨の後に、国県市町村で客観的な事実とおよそのデータ、科学的客観的な検証を2回行ったと。河川整備計画の策定の段階においては、河川法に基づきまして整備計画やさまざまな方から意見を徴収してその意見を確認した上で、その河川管理者としての考え方をお示ししています。

で特に知事や市町村長からも意見をいただいて変更を求めるようなご意見をいただいておりませんし、それから客観的事実として***に皆様からのご意見を踏まえて、今ダムを含む計画を策定しているということですよ。

ご意見とか検証に関するご意見っていうのは多くいただいているところですけども、一方で速やかに行くようその件もあるなど様々な方から多様なご意見をいただいているということです。

これについて、河川管理者としては、まず考え方を誰に対しても同じように正しくかつ漏れなくお伝えするため、よくある質問として取りまとめて皆様にウェブサイト等で掲載させていただいているところですよ。

***の策定以降はですね、円滑な事業促進とか理解促進に向けて、流域治水プロジェクトを進めている具体的な事業でありますとか教育**に関する地域の方々の説明会などをこれまで435回以上の説明を行っておりますし、今後県とか市町村との連携を通じて事業説明会などを続けていきたいと思っています。

■中島

今聞いた感じはこれとこれとこれとこれをやったらこれでおしまいになるという、**

*を全部押ししつただけのような感じですね。けど住民が一番納得するのはやっぱり共同検証ではないんですか。みなさんどうでしょうか。

共同検証をしないと、あの各地方のおえら方とかあの選んだ人たちにお話を伺った、それだけであの方は技術者としてはすごく高い方々だからそれだけで今回の水害の実態というのはお分かりになったのでしょうか、そこに実際の被害にあった方々はそういうことじゃ納得できないですよ。本当にね、じゃあ今度今あなた方が作ろうとしている川辺川ダムを作ったら本当に人吉の人たちの命は救われるんですか、というような声をかけられたら、みんなそれはダメだ、怖いと言います。

1つ本当に不思議なのは、なんで川辺川ダムを作ったら人吉の被害が6割減るんですか。これもおかしい話ですね。川辺川の集水地あたりはあまり雨降ってないんですよ。降っていないというのはちょっと言い過ぎですけど、若干の雨しか降ってないんです。なのにあそこにダムを作って何の効果があるんですか。

この7・4水害に対して何の効果もないと思うんですね。これは実際に水害があった方々がよく分かったんです。そうすると今回の水害が、中小河川、二級河川、三急河川の氾濫であったということが分かるような現象は多々あります。その一つが消防署の裏のあの一帯、あそこ一帯だけドヘドロはないんです。みんな、ドヘドロでドヘドロになってドヘドロを出しているんですよ。あの一帯だけはないです白い砂が床の中に入っているだけです。そのくらいに中小河川からの氾濫の力が強かったんですよ。

だから皆さんが言っているように、球磨川の氾濫でいろんな方々の犠牲者も被害者も出たというのは、大いにおかしい。

昨日の話を聞いていて一番私が腹が立ったのは、川辺川ダムを作れば命も清流も守れるという大きな宣伝を、熊日新聞に広告で全面借り切りで出しました。だから私は国交省の五木での説明会の時に質問をしました。その時に「清流の規定は何ですか」と言ったら、昨日言われたような「清流の感じ方は人それぞれですもんね」というのが国交省からの説明でした。それで私は25センチが、本当1週間くらい前に初めて聞いたんです。

そういう25センチぐらいの深さまで見えれば清流というのは、国交省の正式見解ですか。

■国交省

25センチ以下のことを清流と言っているつもりはなくて、あくまでもアセスの段階ではSSで25というのを基準にして環境影響評価をやったということを言っているだけで、それがイコール清流と言っているつもりはありませんし、それを清流だから守れるということも言っていない。環境影響評価についてSS25が基準というのは言っております。

■中島

シロウトにわかるように言って下さい。それは透明度はどのくらいですか。

■国交省

透明度とか透視度とかいろいろありますが、今SS25の時に測っている水平透明度、これは透視度は縦に測って水平透明度は横に測るんですけども、それだと過去の実績からとったグラフでいくと、22.6センチです。

清流という定義はですね水質だけではございませんので、その25ミリ、例えば水平透明度が22.6センチの時に清流かと言われると、そこは人それぞれだと思うんですけど、川辺川をですね、見て、私たちもですけど、見ている人からすると濁っているというふうに見えるとは思いません。

■中島

一番シロウトがわかる感覚で。今の川辺川、雨が一週間以上降らないような時の澄んだ川辺川、あれが清流ですよ。清流と思われるんですか？

■国交省

清流というかどうかは別として、濁ってない状態で綺麗に見えるという意味では、透明に綺麗だなと思います。

■中島

我々一般の市民は、あのくらいの川の水が透明度の高い川だという風を感じています。今度穴ダムとしても川辺川ダムを作った場合、あの程度の川の澄み具合を保つことはできるんですか？

■国交省

ダムができていない状態でも、洪水になると濁るわけで、その時の濁り方がダムがある時とない時では環境影響評価で検討したところでは大きく変わらないという結果が出ておりますので、我々としては洪水後の濁り方っていうのはダムがあってもなくても大きく変わらないという認識でございます。

■中島

もしも川辺川ダムを作るといふのなら、人吉の方々が調査したように、1800ミリか2000ミリ直視して、直角した方向に見えるほどの川の澄み具合を保てるようなダムにしてもらいたいんですけど、それはできますか？

■国交省

そのように少しでも綺麗な状態ができるようにですね、いろんな構造の工夫とか操作の工夫とかをやっていきたいと考えております。

■中島

立野ダムを作る時に、穴あきなので環境影響は非常に少ない、白川の濁りなんかほとんどないということで、そしていつも川が流れているから、ダムの内側には砂なんか溜まらないという話をされていました。今、ダムの内側に高さ5メートルから6メートルくらいの砂が溜まっているんです。こういう状況が今起こっているんですよ。

昨日えらく綺麗な川だったと言っていた最上小国川ダムも上下流が砂が溜まって、その下流の方は確かにまだアユが少々いますけど、石と石の間を***どンドン腹が***。そういう状況を、まったく人吉の人たちに感じさせないような川の状況が保ってくるんだったら多分そのことに賛成しますと。私はそういうことはできないじゃないですかと言ってるんです。

今言われている、清流ということの定義もきちんとしないで、命も清流も守れるというのは、本当に県民だけじゃなくて納税者をバカにしている話です。終わります。